

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	文化財課	主管課長名
2-5	施策名	文化財の保存活用	関係課	ヤマザクラ課、都市整備課	

1. 施策の目的と成果把握

施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
・市民 ・桜川市内に存在する文化財	①桜川市人口	人	見込値	37,653	37,269	36,647	35,356	34,734
			実績値	37,653	36,794	36,120		
	②指定文化財数	件	見込値	129	129	130	130	131
			実績値	129	129	129		
	③登録文化財数	件	見込値	102	102	102	102	102
			実績値	102	101	101		
施策の意図	成果指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
文化財を保存・活用して継承し、地域に愛着や誇りを持っている。	①文化財などを大切にし、後世に伝承していくべきと思う市民の割合	%	目標値	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
			実績値	79.8	80.4	77.2		
	②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合	%	目標値	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
			実績値	50.6	48.7	46.1		
	③歴史講座等に参加した人数(R4から新規)	人	目標値	120.0	140.0	160.0	180.0	200.0
			実績値	119.0	232.0	265.0		
			目標値					
			実績値					
成果指標設定の考え方	「文化財を保存・活用して継承し、地域に愛着や誇りを持っている」は、①文化財などを大切にし、後世に伝承していくべきと思う市民の割合を、実績値を80%に維持することにより継承出来ると判断した。②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合を実測値50%に維持することにより維持出来ると判断した。③歴史講座等に参加した人数を増加させることにより、施策の意図が醸成されると判断した。							
	成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①文化財などを大切にし、後世に伝承していくべきと思う市民の割合、②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合は、市民アンケートより求める。③歴史講座等に参加した人数は、現地説明会や各種講座等の受付簿より求める。						

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)		
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
背景要因	市民アンケート結果は、ほぼ横ばいで推移しているが、全体的な微減傾向は変わっていない。新型コロナウイルスの影響は小さくなったが、集落の高齢化により民俗行事の途絶が続く流れには歯止めがかかっている。歴史講座等の回数や種類を強化したため、歴史講座等への参加者は増加している。	
2) 成果目標の達成状況		
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った
背景要因	①文化財などを大切にし、後世に継承していくべきと思う市民の割合は、令和6年度目標値80.0%に対し、77.2%と2.8ポイント下回った。 ②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合は令和6年度目標値50.0%に対し、46.1%と3.9ポイント下回った。 目標値を現状から設定しているため、現時点はほぼ設定通りである。 ③の歴史講座等に参加した人数は、歴史講座等の強化を図ったため、目標値を上回った。 アンケート結果を地区別に見ると、指標①では岩瀬地区74.7%、真壁地区80.1%、大和地区78.9%と高い水準にあるが、岩瀬地区は他に比べて5ポイント近く低い。 指標②では、岩瀬地区41.9%、真壁地区49.8%、大和地区49.6%となっており、岩瀬地区と他の地区とでは約8ポイントの開きがある。 富谷観音・雨引観音・椎尾葉師の三塔巡りなど、地域分布に配慮した行事も実施したが、真壁城跡や伝統的な町並みなど分かりやすい歴史資源が南部に多いことから、真壁・大和地区でのアンケート結果の方が良い数値が出る傾向にある。	

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
令和6年度に貢献度が高かった事業は、国指定史跡真壁城跡保存整備事業、指定文化財等維持管理・調査事業、歴史資料館運営・教育普及事業であった。強風による倒木被害への緊急対応を含め、県指定文化財の修理を多数実施し、文化財の保全や安全対策が進んだ。真壁城跡は保存活用計画に着手し、国との協議もスタートした。歴史資料館展示や歴史講座を主体とする教育普及事業を強化し、参加者数が増大した。	史跡真壁城跡の発掘調査がひと段落したが、整備に向けた保存活用計画、基本計画等の改訂が急務となっており、重点を置いて事業を進める必要がある。大雨等の災害が増加していることもあり、修理を要する文化財が多くなっており、広汎に計画を立てながら維持保全に努めていく必要がある。住民の年代構成によるものと考えられるが、岩瀬地区での文化財への評価が低い状況にあり、特に重点を置いて情報発信や教育普及事業を実施する必要がある。